

## (2) 後半の活動

東北大学原子分子材料科学高等研究機構 栗原和枝 (8期学協会連絡会委員長)

「連絡会の財産はアンケート」と言われる。2003年に実施された第1回アンケートの報告(2004年3月)は、研究者の仕事と家庭に関する広範な項目について処遇、環境、両立などの視点からの調査結果をまとめたものである。男女共同参画というそれまでは個人レベルとされた課題について、2万人に近いデータを集めることで、社会的な課題としての理解を得る基盤となったものである。

この結果をもとに連絡会ならびにその参画学協会が提言をまとめた。連絡会からは「研究助成への申請枠拡大に関する提言—研究費等助成機関への提言—」(2004年11月)そして「科学技術研究者に適した育児支援制度の整備に関する提言—政府ならびに研究諸機関に対する提言—」(2004年10月)が提出された。

日本生物物理学会では、郷通子氏が初めての女性会長となるなど、発足当初より女性研究者が活躍しており、また年会における保育室の設営も早く1999年から行っている。2004年度には男女共同参画・若手問題検討委員会が発足し、また日本学術会議の生物物理研究連絡会にキャリア・人材育成検討小委員会が設立され、両者で連携して議論を深め、学会からは提言「科学技術研究者に適した男女共同参画制度の整備について」(2005年3月)を提出し、さらに学術会議では分子生物学研究連絡会と合同で検討を進め、「科学者・技術者の人材のさらなる活用を図る男女共同参画制度の整備について—理工学系の現状に基づく提言—」(2005年8月)という報告を提出した。

これら連絡会ならびに各学協会等からの提言・要望が反映する形で、文部科学省の「女性研究者支援モデル」事業が2006年から開始されるなど、女性研究者支援の施策が実現した。モデル事業には初年度は女子大学2校を含む10大学が採択され、3年間の支援を受けて各大学でモデル

的取り組みが開始された。育児中の研究者の支援制度の整備(各大学)、保育室の整備にはじまり(各大学)、女性研究者採用のための人事枠の支援(北海道大学)、女子大学院生の学内外活動(東北大学、サイエンスエンジェル制度)などユニークな支援制度が提案された。連絡会シンポジウムでも、学協会の活動とともにこれらのモデル事業の紹介がされ、学生の参加もあり一層にぎやかである。

当モデル事業は、計55機関(大学ならびに独立行政法人)が行い、最終の2010年採択校10大学が本年事業を終了する。後続の「女性研究者養成システム改革加速」プログラムでは現在12大学が5年間の事業を実施している。女性研究者養成を加速するために、女性枠採用支援などが行われている。2009年度に開始した5大学は2013年度に事業を終了する。

支援事業が開始された2006年から2007年(5期)の幹事学会は生物物理学会で分子生物学会からバトンタッチされた。美宅成樹氏(当時の生物物理学会会長)が初めての男性委員長に就任され、第2回大規模アンケート調査を実現された。その後、日本地球惑星科学連合、電子情報通信学会、高分子学会(8期)と幹事学会が引き継がれ、現在まで、上記の支援事業の継続や普及などに努力してきた。この秋には第3回大規模アンケートが実施される予定である。是非多くの方に回答いただきたい。

この10年の連絡会の活動は、年齢や男女を越えた多くの学協会の皆様の尽力により支えられてきたものである。これらのご尽力にいつも感謝している。今後、さらに若い世代に連絡会のバトンが渡され、男性と女性がともにその個性と能力を発揮できる環境とネットワークづくりを通じて、活力ある社会の発展に貢献することを願っている。

## 栗原和枝氏プロフィール



学歴：1974年お茶の水女子大学理学部化学科卒業。

1979年 東京大学大学院工学系研究科修了・工学博士。

専門分野：コロイドおよび界面化学・高分子。

職歴：1979年東京大学技官などを経て、1987年 ERATO グループリーダー、1992年名古屋大学助教授、1997年東北大学反応化学研究所教授、2001年同大多元物質科学研究所教授（改組による）、2010年同大原子分子材料科学高等研究機構教授（多元研教授兼務）。

社会活動：2005年～日本学術会議会員（第20～22期）、2007年～文部科学省独立行政法人評価委員会委員、2006～2010年高分子学会理事、2010～2012年高分子学会常任理事、2007年男女共同参画学協会連絡会副委員長、2010年男女共同参画学協会連絡会委員長、2011年～日本化学会理事、

2012年～International Association of Colloid and Interface Scientists 会長、他。

受賞：97年日本女性科学者の会奨励賞、2000年日本化学会学術賞、2011年オーストラリア化学会 A.E. Alexander Lectureship Award、他。